

180

# 歴史散歩



## 真福院と藤堂池

国道368号を奈良県方面へ向かい、県境手前の美杉町杉平で三多気の桜などの案内標識を右折すると、真福院へと至る約1.5kmの参道に入ります。勾配のある参道に続くヤマザクラの並木は「三多気の桜」として国の名勝に指定され、この参道は東海・近畿自然歩道や森林セラピー基地、大洞山の登山道としても利用されています。

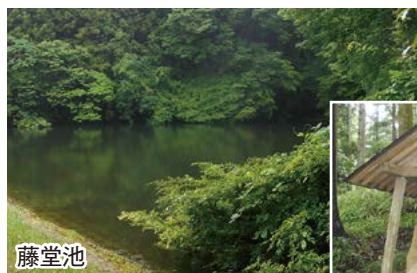
桜並木を抜けると真福院に到着します。境内への登り口には左側に3基、右側に9基の供養碑があり、そのうち大きな種子碑や宝篋印塔などは鎌倉時代のもので、真福院の歴史が鎌倉以前から続くことを示す重要な資料として県の史跡に指定されています。登り口の鳥居からは急な石段が続き、その頂にある朱色の山門までの間に2本の杉の巨木と、樹齢1,000年以上を誇り県の天然記念物にも指定されている「真福院のケヤキ」を目にすることができます。

境内を抜け、大洞山へ向かう登山道を行くと、その途中に木々に覆われたため池があります。「藤堂池」と呼ばれるその池は、江戸時代に真福院からの請願をうけて藤堂藩が造成したといわれています。面積約7,000㎡、堤高7.1m

のこの池は5,700㎡の水が蓄えられ、その落差を利用し、かんがい用水のほか下流に住む人々のための飲料水や防火用水として三多気の集落を潤してきました。

昭和32年に池の改修工事が行われ、かつて吐水口に利用されていた漆喰製の「樋」の一部が見つかりました。古い池には必ずある樋ですが、解体などが行われな限り目にするのではないため、現在は真福院の境内に保存され、その歴史を伝えています。

真福院への参道やその周囲には清らかな小川が流れ、訪れる人の心を穏やかにしてくれます。森林の木陰の下、涼しげな水音を聴きながら歴史ある真福院や夏の三多気を散策してみたいかがでしょうか。



藤堂池



藤堂池で見つかった樋



真福院の山門

